

[5] 家庭との連携

(1) 生活リズム調査

中学部では、家庭との連携を図っていくためにも、生徒の家庭での生活の実態を把握することが必要だということで、生活リズムに関するアンケート調査を実施している。今年度は、規則正しく自立した生活を目指した調査項目の他に、「コミュニケーション」に視点をあてた調査項目を加え実施した。

その調査項目は、次の様なものである。

① 規則正しく自立した生活を目指して

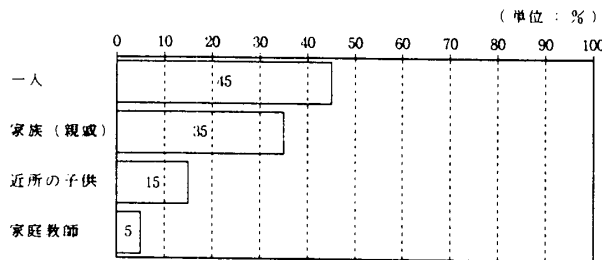
- ・一週間のくらしの様子（日程表）
- ・起床について
- ・食事について
- ・間食について
- ・お手伝いについて
- ・入浴について
- ・排便について
- ・睡眠について

② コミュニケーションの視点から

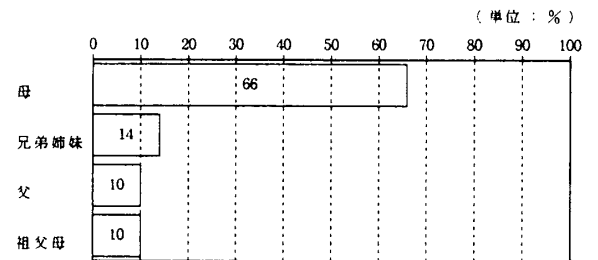
- ・遊びについて（誰と、どんなことを、どれくらいの時間）
- ・家庭内での生徒との関わりの多い順
- ・家庭での生徒のコミュニケーションの様子（よく話すかどうか、話題、話をする時間帯）
- ・生徒のコミュニケーションの力についての親のとらえ方（どの程度できているか、どんな力をつけさせたいか）
- ・生徒の活動範囲（どこに、誰と、何のために、交通手段、所要時間、頻度、特記事項）

②のコミュニケーションの視点からの調査項目についての主な結果をまとめると次の様であった。

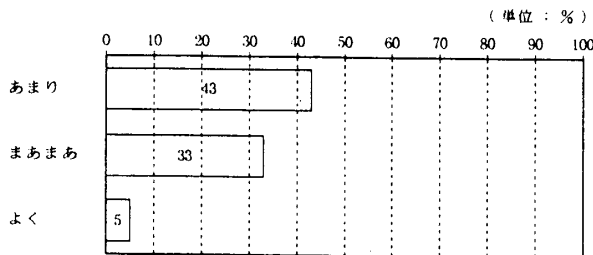
2-⑧ 遊びについて（誰と遊ぶか）



2-⑨ 家族とのかかわり（1番かかわりの多いのは誰か）



2-⑩ 会話について（学校であったことなどを話すかどうか）



2-⑪ 話題の内容について（複数回答あり、無記入5名）

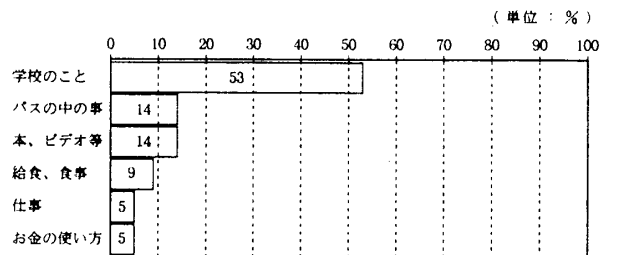
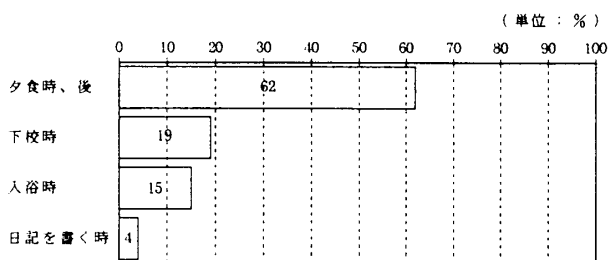
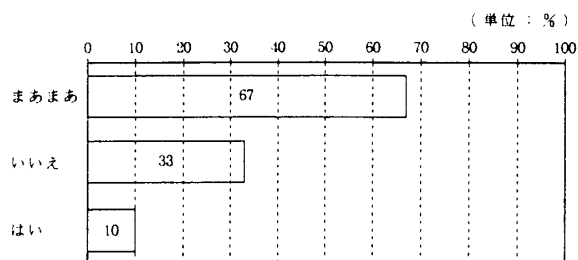


図6 アンケート調査結果（抜粋）

2-⑫ 話しをする時間帯（複数回答あり）



2-⑬ コミュニケーションがうまくできているか（親の意識）



- ・下校後、あるいは休日に、近所の子供、友だちと遊んでいる生徒は3名のみで、その他の生徒は、1人遊びか家族と遊んでいるかである。—— 地域社会とのつながりが希薄
- ・中学生とはいいいながら、男子が21名中17名いるにもかかわらず父親または兄弟姉妹とより母親との関わりの多い生徒が多い。
- ・学校のことなどをあまり話さないという生徒が43%（9名）もあり、親からみて、人とのやりとりもあまりうまくいっていないと見られている生徒も33%（7名）いる。—— そのうち、中学生としての精神的な成長（反抗期）によるものと思われるもの（2～3名）、自閉症、自閉的傾向によるもの（3名）、全体的に遅れが重度なもの（3名）

※全体的に、家族以外の人との関わりが少ない傾向にあるので、機会をとらえてできるだけ家庭の外に連れだしてもらいたい。また、いろいろな体験を通して、家族以外の人とふれあう場をつくってもらおうよう、家庭に働きかけていく必要がある。

(2) 調査結果を受けての家庭との連携

以上の様な調査結果を受けて、各クラスごとに生活ノートや学級だよりで学校での様子を詳しく知らせると共に、時には具体的な例をあげて、家庭での話題に取りあげてもらおうように努めている。

その結果、自閉症のために学校でのことなどを自発的に話すことが難しいF男の場合、情報をもとに母親と一緒に話しながら日記を書く際、本人から出てきたことばには線を引いて区別して記録を残して下さるようになり、学校でも同様の対応をするようにしている。

また、K男の場合、まわりの大人がK男の思いをくみ取り対応してしまっているのではないかとということが生活ノートで話題となり、ことばでの表出を待つ構えを学校、家庭で同一步調で取ることなども話し合わせ実践された。

しかし、家族以外の人とふれあう場の設定、生活経験の拡大についてはなかなか難しく、今後の課題とされる。

中1学級だより	フレンズ	平成5年10月18日
<p>宿泊学習目前。</p> <p>大山林間学校にむけての学習が続いています。今回は、中学部21名を3グループに分けて縦割りの活動が中心です。</p> <p>「縦割り学習の効果」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>*学級の仲間でのやりとりが終わることなく、違った集団での活動が可能になる。</li> <li>*昨年経験したことをもとに2・3年生の言動によって、1年生なりの見通しがもてる。（教師が何度も話をしよるより、はるかに効果的です。）</li> <li>*名前だけは知っている他学年の生徒をより深く理解することができたり、逆に1年生の個性をアピールすることができる。</li> </ul> <p>今週は、いよいよ中学部合同宿泊学習です。これも大山林間学校の事前学習です。縦割りグループで計画した内容で学習が進みます。しいただけお世話になった河原町の楓川さんの家まで校外学習を行います。3グループで行き方・帰りが異なるという状況も生まれています。したがって、小谷・田村両担任も担当グループ以外の計画は、生徒からの会話によってはじめてわかる。このような毎日です。宿泊学習の準備とともに、どの活動が一番期待しているかを書いてやってください。</p> <p>一例：「21日は、どんな活動がありますか。22日はどんな活動がありますか。」 「21日は、何が楽しみですか?」「22日は、何が楽しみですか?」</p> <p>&lt;すかたに&gt;</p> <p>S男君：かなり長い時間をかけて、田村先生・小谷先生と大事な話をした1週間でした。班別活動に参加できないこともありましたが、今週は班長の1男君にいろいろ聞きながら活動してくれることと思います。</p> <p>H男君：「どんぐり班」では、大山の地蔵さんにちなんだ出し物をするにしています。中2のC男君と2人で、地蔵さんの帽子をつくっていました。今週は</p>		

学級だよりより